

2021年度 全国競技運営責任者会議 報告

2022. 2. 12～ 2. 13 オンライン

2022年度 競技規則修改正の概要

条文番号	内 容
TR 5. 2	競技用靴
TR17. 4. 3 17. 4. 4	曲走路の内側を踏んだ際の扱い
TR25. 17	フィールド競技の試技時間
TR29. 3 29. 5 30. 1	走幅跳・三段跳の判定
TR32. 14	円盤投・ハンマー投の無効試技、囲いの境界

CR25. 4	スタートリストと結果に記載する略号
CR32	世界記録として公認される種目
CR37	日本記録として公認される種目 記録の申請時期

修改正のポイント

★TR 5.2 競技用靴

主な変更点	改 正 前	改 正 後
靴底の厚さの定義	中敷きと靴底を含んだ厚さ	靴底の厚さ ・購入時のインナーソールは厚さに含む ・WA事前承認の追加インソールは厚さに含まない
カスタム 既存靴のカスタム化	・可 ・競技者の足の形に合わせる ・事前申請の必要性は規定なし	・可 ・ただし、WAの事前申請・承認が必要 ・安全/医療上の理由が必要と明確化
対象競技会	WA競技規則に準じた競技会 (ただし、線引きが不明確)	・WA競技規則に準じており、ワールドランキングポイントが獲得できる大会 * 2023年1月からワールドランキング競技会制度が導入され対象大会が明確化
靴底の厚さ	現行規定：2024年10月31日まで	2024年11月1日から、T&F種目シューズが全て20mmに統一
遵守規定		・承認状況不明：出場させることは可 ただし、「UNC TR5.2」(未認定)扱いでレース後の検査が必要 ・競技者は靴を常時提出できるように

➢靴のカスタマイズ

《医療および安全上の理由から、以下のカスタマイズが認められる》

- ・靴底の構造および靴底の最大の厚さの変更。*最大の厚さは制限以内
- ・ノン・スパイクシューズをスパイクシューズにカスタマイズ
- ・「靴の甲」部分を、別の既存靴または新しい「靴の甲」部分に変更、追加
- ・競技用靴へのインナーソール追加、その他の挿入物や追加物の付加 *条件付き
 - a. 追加インナーソールまたは挿入物は、取り外し可能な装具
 - b. 追加物は、ヒールレイズ or ヒールキャップ、ブレース or ストラップ
- ・装具、ヒールレイズ、ヒールキャップは、最大の厚さに含まれない
- ・色や外観の変更、自分の靴をテーピングは、カスタマイズではなく承認不要
- ・カスタマイズされた靴のベースとなる標準モデルの靴は購入可能

➤TR 5.2 [国内] に、競技靴に関する主要規則を追加

- ・靴底は11本以内のスパイクが取り付けられる構造
- ・11個までのスパイクの使用可
- ・スパイクの長さは9mm（屋内は6mm）を超えてはならない
- ・走高跳、やり投のスパイクの長さは12mmを超えてはならない
- ・スパイクは先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方

※スパイクに関して靴底以外のルール変更はないので、招集所でのチェックは引き続き必要

・医療および安全上の理由から、競技用靴（市販されているものに限る）へのインナーソールの追加、その他の物の挿入および追加は以下の条件でのみ認められる。

- a. 中敷（インナーソール）の追加または挿入物は、取り外し可能な装具であること（靴の内側に恒久的に固定することはできない）。
- b. 追加物は、ヒールレイズまたはヒールキャップ（例：跳躍競技用靴）、ブレースまたはストラップ（例：投げ競技用靴）とする。

➤運用

【WA】

- ・Athletic Shoe Regulations を適用する競技会の明確化
(WA競技規則に準じワールドランキングポイントが獲得できる大会)
- ・「事前チェック」から、「事後チェックは必要に応じて行う」に変化
- ・レース後の事後チェックが行われる場合もある

事前：カスタマイズ靴の承認有無、競技会によっては着用靴の届出書

事後：審判長やシューコントロールオフィサーが必要と考える選手の現物チェック、検査のための預かり、検査での切断、等

【国内】

- ・原則として、必要以上に事前の現物チェックや届出は行わない
 - * 主催者判断で事前チェックを行うことを止めるものではない
- ・現物の事後チェックを限定的に実施（承認靴リストとの照合、写真撮影、預かり、WAへ提出、等)
 - 例)・日本記録、エリア記録、世界記録が出た場合
 - ・世界選手権等の参加標準記録を達成した場合
 - ・ワールドランキングポイントレベルの記録が出た場合
 - ・その他、審判長が特に必要と考えた場合
 - ・国内で開催される国際競技会ではWA規則に従うので、カスタマイズ靴を着用する選手（メーカー）は、WAへの事前届出とWAの事前承認が必要
 - ・陸連主催競技会等では着用靴の事前届出書の提出を求めるケースもある
 - ・大会要項、競技注意事項等での靴のチェック方法の周知

表1 靴底の最大の厚さ（購入時から装着されているオリジナルのインナーソールを含む）

【2024年10月31日まで】

種目	ソールの最大厚さ (本規程 10.6 による)	その他の要件/注意
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投げ種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、本規程 10.3 および 10.4 で言及されているように、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75% にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12% にある靴の中心点）。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75% にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12% にある靴の中心点）。
トラック種目 (800m未満の種目、 ハーダル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック競技 (800m以上の種目、 障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
クロスカントリー	25mm のスパイクシューズか 40mm のスパイクなしのシューズ	競技者はスパイクシューズでもノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 25mm を超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 40mm を超えてはならない。
道路競技 (競走・競歩)	40mm	
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

表2 靴底の最大の厚さ（購入時から装着されているオリジナルのインナーソールを含む）

【2024年11月1日から有効】

競技	ソールの最大厚さ (本規程 10.6 による)	その他の要件/注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、本規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75% にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12% にある靴の中心点）。
道路競技 (競走・競歩)	40mm	
クロスカントリー	20mm スパイクシューズか 40mm ノン・スパイクシューズ	競技者はスパイクシューズでもノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 20mm を超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 40mm を超えてはならない。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

★TR17.4.3 TR17.4.4 曲走路の内側を踏んだ際の扱い

TR17.4

以下の場合で、それぞれ実質的な利益がなく、他の競技者を押しのけたり、塞いだりして進行を妨害していなければ、失格とはならない。実質的な利益を得たと判定された場合、その競技者または当該レースのリレーチームは失格となる。

➤TR17.4.3

レーンで行う全てのレース（TR17.3.1 参照）の曲走路で、レーンの左側の白線や走路の境界を示す縁石または白線に1回（1歩）だけ触れた場合。

➤TR17.4.4

レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレース（TR17.3.2 参照）の曲走路で、走路の境界を示す縁石または白線を1回（1歩）だけ踏んだり、完全に超えたり（内側に入ったり）した場合。

TR17.4.3	TR17.4.4
<p>レーンの割当てのある曲走路で</p> <ul style="list-style-type: none">内側の線に触れた（踏んだ） 1回（1歩）だけ → 失格とならない 2回（2歩）以上 → 失格 <p>触れた位置 踏んだ位置</p> <p><個人></p> <p>同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）</p> <p><リレー></p> <p>同一選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 別々の選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）</p> <p>* 内側の線を越えて完全に隣のレーンに入ったら1回であっても失格 * 内側の線を踏みながら隣のレーンに入った場合は「線に触れている」と考え、1回だけなら失格とはならない * 内側の線を踏んだのは1回だけだが、他の競技者（チーム）を妨害したら失格 [TR17.2.2]</p>	<p>レーンの割当てのない曲走路で</p> <ul style="list-style-type: none">縁石（白線）に触れた（踏んだ）、縁石（白線）の内側に入った 1回（1歩）だけ → 失格とならない 2回（2歩）以上 → 失格 <p>触れた位置 踏んだ位置</p> <p><個人></p> <p>同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）</p> <p><リレー></p> <p>同一選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 別々の選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回） 同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）</p> <p>* 内側に入ったのは1回だけだが、他の競技者（チーム）を妨害したら失格 [TR17.2.2]</p>

- ・レーン侵害を行ったら、記録（リザルト）と次のラウンドのスタートリストには「レーン侵害1回目」の情報として、『L』を記載
L：レーン侵害（TR17.4.3 TR17.4.4）[CR25.4に略号追加]

- ・レーン侵害の繰越しルール（1回目は失格としないが、次に侵害したら失格）は、
同一種目の異なるラウンドへの繰越し：あり
別種目への繰越し：なし
例）200m予選で1回目のレーン侵害を行った競技者が、200mの準決勝で再度レーン侵害を行った → 失格
200m予選で1回目のレーン侵害を行った競技者が、400mの予選でレーン侵害を行った → 失格としない
- ・混成競技は同一種目で複数回の違反があれば失格となるが、他の種目への繰越しはない

- ・1つのレースでレーンの割当てとレーンの割当てのない部分がある場合（例：800m、4×400m）は、「走っている位置」で適用される規則が異なる。
レーンの割当てのある場所 → TR17.4.3 を適用
レーンの割当てのない場所 → TR17.4.4 を適用

●CR31.14.4：TR17.4.3とTR17.4.4に関する記録の扱い

個人種目、リレー種目ともに

➢TR17.4.3とTR17.4.4に1回だけ違反した場合、その記録は認められる

➢違反が

- ①同一ラウンドで複数回あった場合
- ②同一種目の前のラウンドで1回目の違反があり、再び違反した場合
→ 失格となりその記録は認められない

●監察員

- ・役割・任務に変更なし

※「どこを踏んだのか」、「何歩踏んだのか」、「妨害があったのか」、「順位を上げるために内側に入ったのか」、「ポケットされた状態から抜け出そうとしたのか」、等をより詳細に見たままを報告

- ・ビデオ監察装置が利用できればベターだが万能ではない

●審判長

- ・何の違反が「どこで」、「何回か」、「その時の状況」をチェック
- ・どの条文を適用して「失格とする」、「失格としない」のかを理解

●情報共有

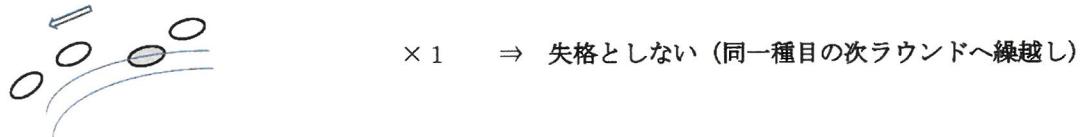
- ・どの部署と共有するのか（競技会の規模に応じて）
- ・競技運営システムに記録する または 紙媒体での記録



【回数】

<TR17.4.3>

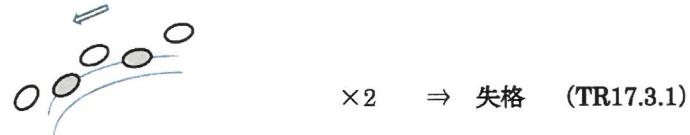
- ① 内側の線を 1 歩 (1 回) だけ踏んだ



- ② 内側の線を 2 歩以上続けて (2 回以上続けて) 踏んだ

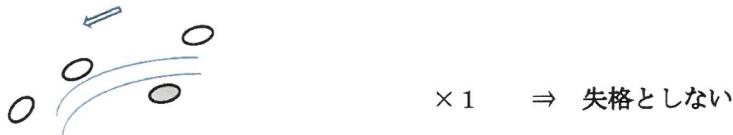


- ③ 内側の線を 1 歩 (1 回) 踏んだ後、別の場所で再び内側の線を踏んだ

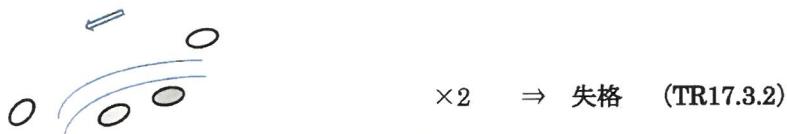


<TR17.4.4>

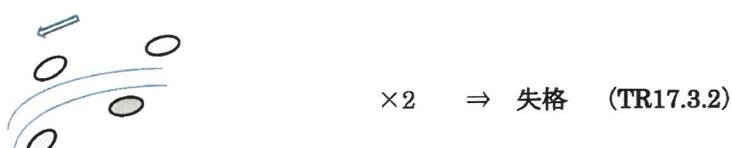
- ①縁石の内側に 1 歩 (1 回) だけ踏み込んだ



- ②縁石の内側に 2 歩 (2 回) 以上踏み込んだ

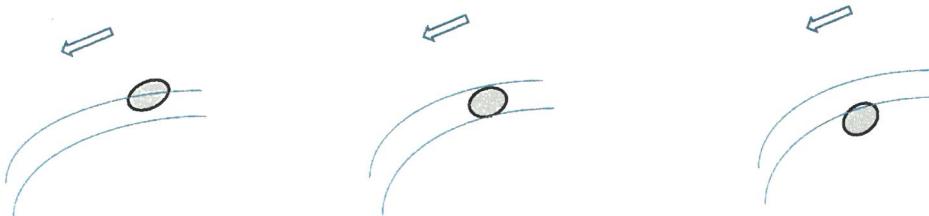


- ③縁石の内側に 1 歩 (1 回) 踏み込んだ後、別の場所で再び縁石の内側に踏み込んだ

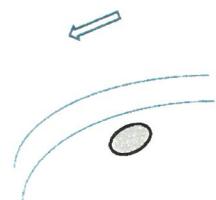


【線と踏んだ位置の関係<TR17.4.3>】

- ・1回目（1歩目）は失格としない



- ・1回目（1歩目）であっても失格

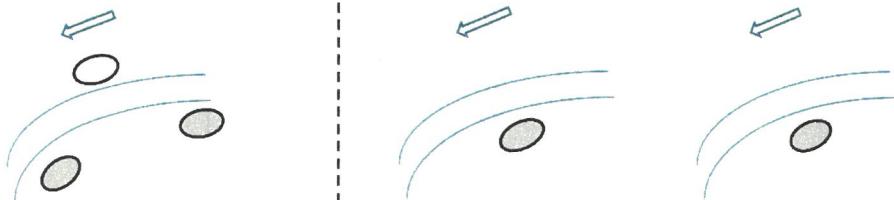


【縁石（縁石下の白線線）と踏んだ位置の関係<TR17.4.4>】

- ・1回目（1歩目）は失格としない



- ・2回目（2歩目）は失格



- ・同じレースの第一曲走路で1回、第二曲走路で1回
- ・前のラウンドで1回、次のラウンドで1回 等

★TR25.17 フィールド競技の試技時間

◎単独種目の走高跳・棒高跳の連続試技の適用時間の変更

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上 *	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技 **	2分	3分	2分

【変更前】

* 4人以上または各競技者の最初の試技

** 走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上で同一の高さの時のみ適用する。

【変更後】

* 4人以上または各競技者の最初の試技

** 単独競技・混成競技とともに、残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

►単独種目：棒高跳の試技時間適用例

(人数)	4m80 (5)	4m90 (5)	5m00 (4)	5m10 (4)	5m20 (3)	変更前 2分	変更後 3分
兵庫	××	○	××			⇒ 連続試技	
神戸	○	×	○	×			
尼崎	○	○	×	○	○		
明石	—	○	—	○	○		
姫路	—	—	—	—	—	連続試技 3分	連続試技 3分

★TR29.3 TR29.5 TR30.1 走幅跳・三段跳の判定

●ビデオカメラ等による踏切の判定導入

- ・ビデオカメラ等の機器の使用が可能に

➢ビデオカメラ等を使用する場合 → 粘土板は使用しない

➢ビデオカメラ等を使用しない場合 → 粘土板の使用が基本

※ビデオカメラ、粘土板はともに判定のための補助的用具ではあるが、判定の正確性向上、抗議等に備えて使用するもの

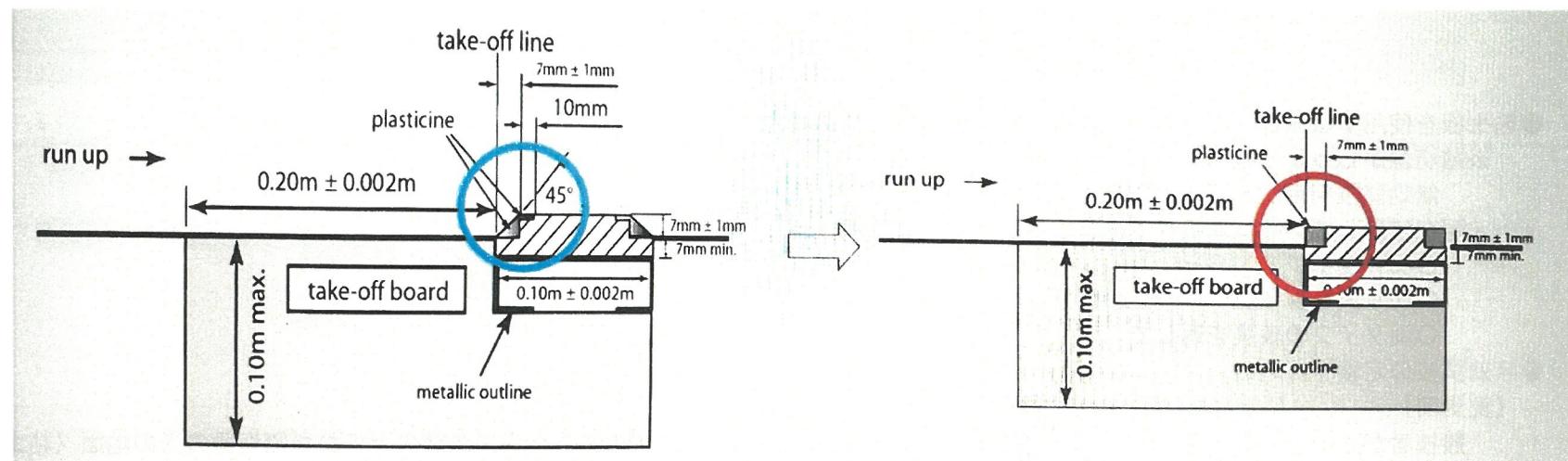
➢カメラの性能、設置位置、確認のしやすさ等のチェックが必要

●粘土板の粘土の角度

【変更前】45°

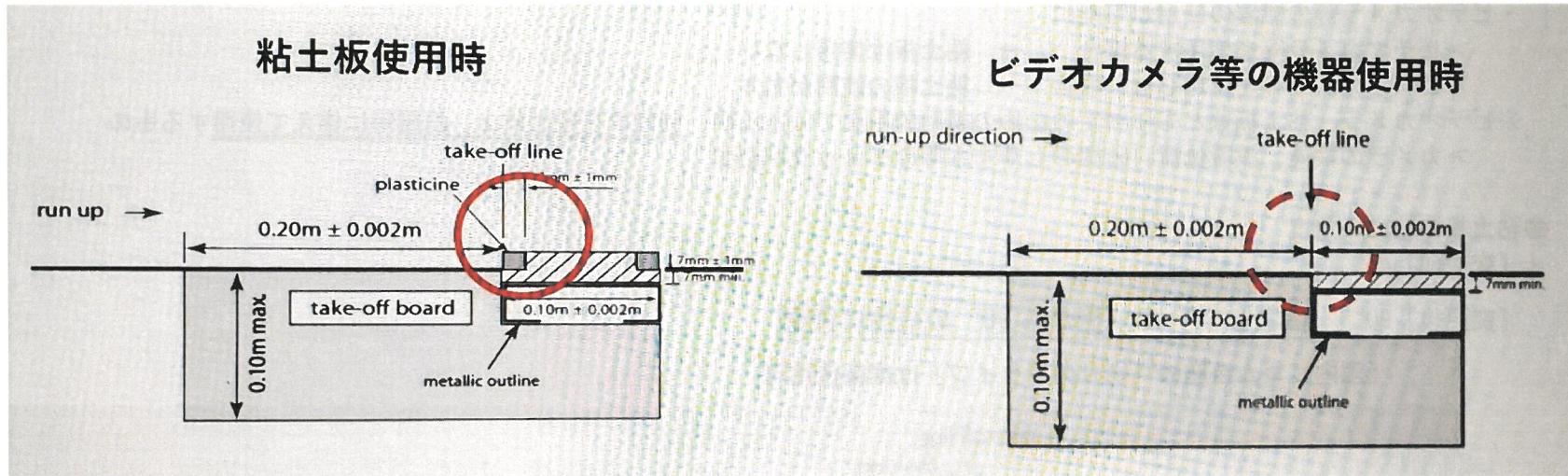
【変更後】90° 粘土を45°の成型から90°の成型に変更

〔国内〕ゴム台座の「切り欠きタイプ」は継続使用可



●ビデオカメラ等の機器使用時

- ・粘土板は使用しない
- ・踏切板と粘土板を外した場所の窪みを埋めたものとのレベルは同一にする



●粘土板を使用する場合（ビデオカメラ等の機器を使用しない場合）

※踏切線がしっかりと判別できること

無効試技判定がきちんとできることが重要

- ・現在使用しているゴム板をそのまま使用することで可
 - 45° タイプ
 - 切り欠きタイプ
 - 両タイプの表裏を返して

●無効試技の定義

【変更前】

競技者が踏切りを行う際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で身体のどこかが踏切線の先の地面（粘土板を含む）に触れた時

【変更後】

競技者が踏切る際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で踏切足または踏切足の靴のどこかが、**踏切板から離れる前に、または地面から離れる前に、踏切線の垂直面より前に出た時**

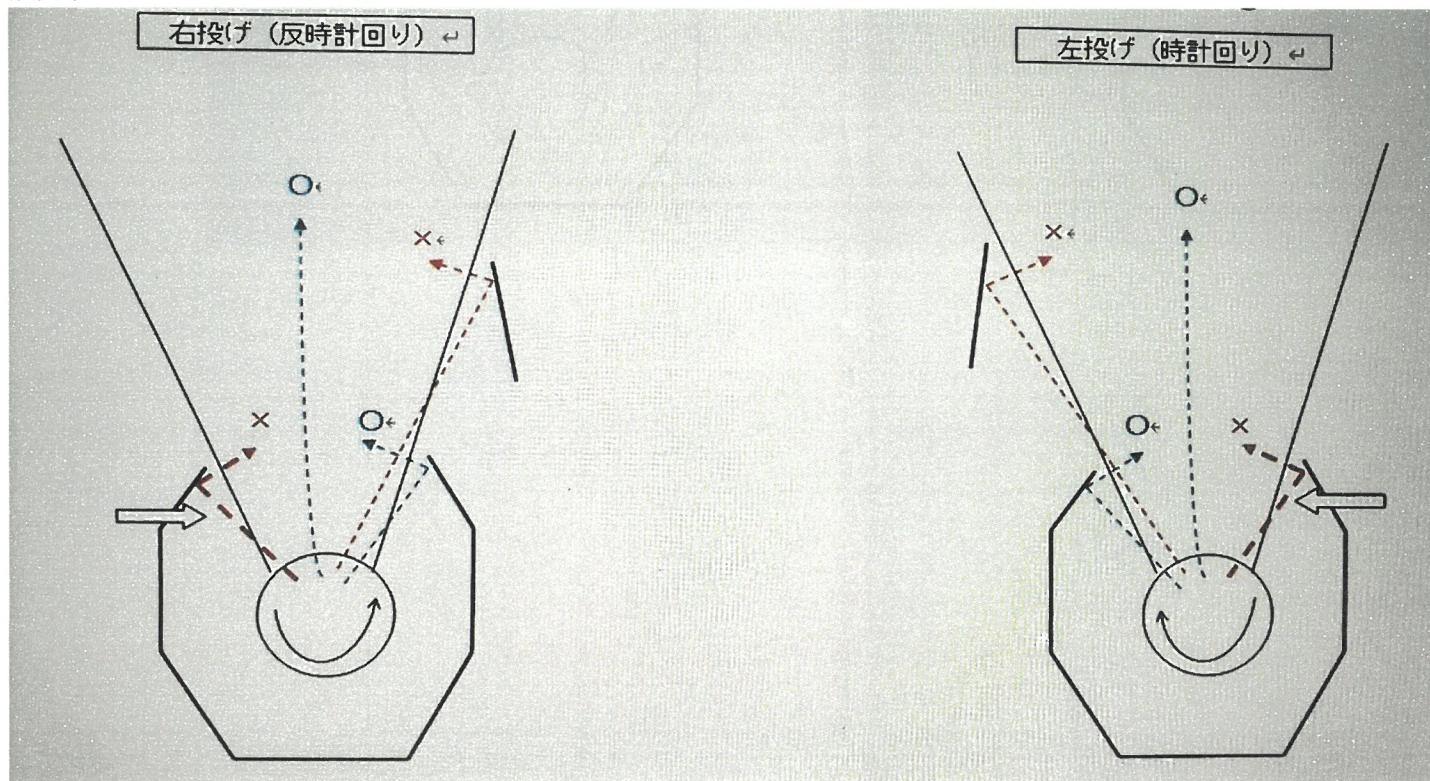
〔国内〕

粘土板を使用して判定を行う際は、粘土板に痕跡が残った時は無効試技とする。

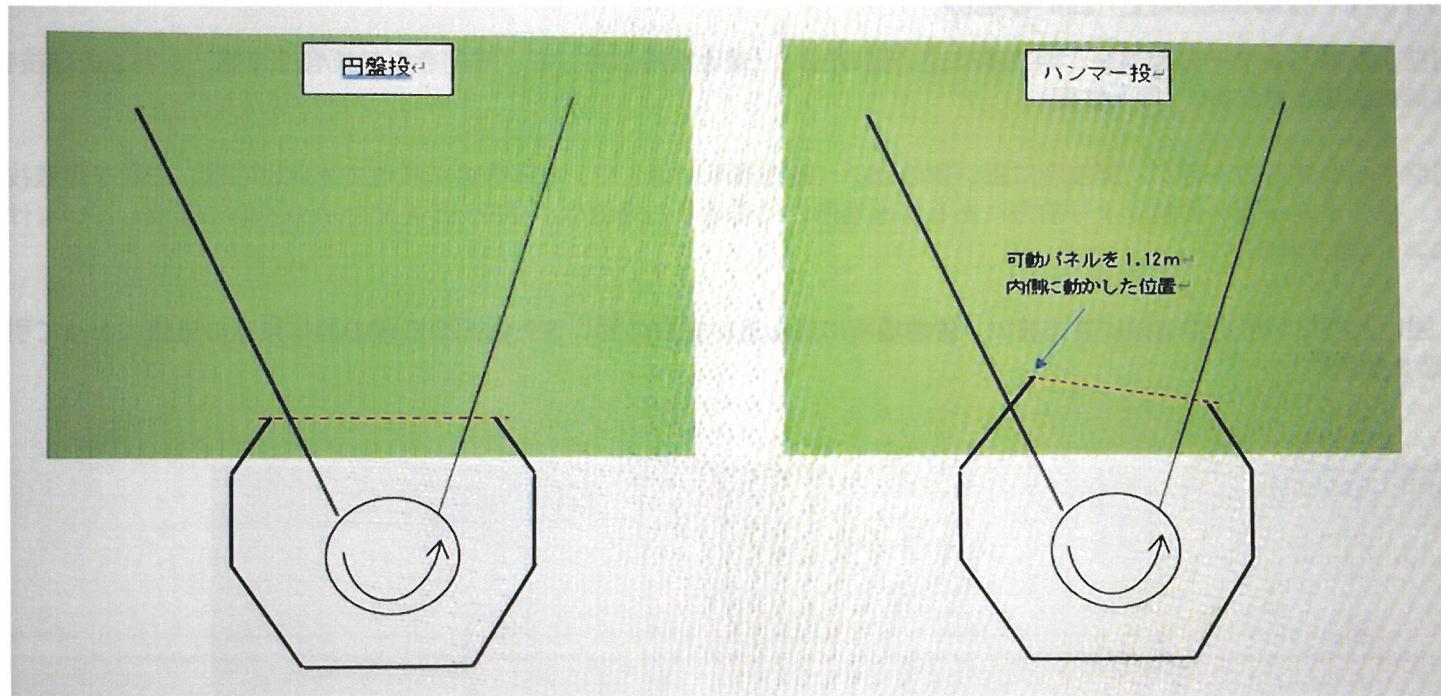
★TR32.14 円盤投・ハンマー投の無効試技・囲いの境界

- i 競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が、競技者に遠い側の囲い（着地場所に対して、右利きの競技者は左側、左利きの競技者は右側）に当たった場合は無効試技とみなす。（図1参照）
- ii 競技者の投げた円盤やハンマーの一部が、競技者に近い側の囲い（着地場所に対して、右利きの競技者であれば右側、左利きの競技者であれば左側）に当たり、投てき物が囲いの境界より前方にある着地場所内に着地した場合は、TR32.10 を含む他の規則に違反していなければ無効試技とはみなさない。（図1参照）
- * 囲いの境界とは、囲いと門口が所定の位置にある時に、着地場所に最も近い左右の囲いまたは門口の端の間に架空の直線によって引かれるものと定義する。（図2参照）

(図1)



(図2)



★CR25.4 スタートリストと結果に記載する略号

- ・レーン侵害 (TR17.4.3 TR17.4.4) : 略号 L

★CR32 世界記録として公認される種目

男 子

競走・混成競技・競歩種目

写真判定あるいは手動計時 :

競歩(トラック) 20,000m 30,000m° 35,000m°,
50,000m

写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 :

道路競技 5km 10km ハーフマラソン マラソン
50km# 100km ロードリレー (マラソン距離)

競歩(道路) 20 km 35km° 50 km

女 子

写真判定あるいは手動計時 :

競歩(トラック) 10,000m 20,000m 35,000m°
50,000m *

写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 :

道路競技 5km 10km ハーフマラソン マラソン
50km# 100km ロードリレー (マラソン距離)

競歩(道路) 20 km 35km° 50 km

* 記録の初回認定は 2019 年 1 月 1 日以降とし、
4.20:00 以内の記録を対象とする。

◦ 記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、男子
は 2 時間 22 分 00 秒以内、女子は 2 時間 38 分
00 秒以内の記録を対象とする。

男子の 30,000m の記録は、35,000m の初回認定
記録が掲載された段階で削除する。

記録の初回認定は 2022 年 1 月 1 日とし、CR31
に適合した記録とする。男子は 2 時間 43 分 38
秒以内、女子 [単独レース] は 3 時間 07 分 20
秒以内、女子 [男女混合レース] は 2 時間 59 分
54 秒以内の記録を対象とする。

★CR37 日本記録として公認される種目

* 世界陸連 (WA) の世界記録を認める種目追加に伴い、日本記録も追加する

※記録の申請時期

【変更前】

30 日以内に…

【変更後】

できるだけ速やかに… (競技会終了後、一週間をめどとする)